

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

目標17:パートナーシップで目標を達成しよう

10

人や国の不平等を
なくそう

目標10:人や国の不平等をなくそう

★ヘイトスピーチから排外主義へ★

「日本人ファースト」、この夏に参議院選挙があり、TVに新聞、SNS、インターネット上で、この言葉を目や耳にする機会が多かったように思います。

「人種や民族、宗教、性別等、特定の属性に対し憎悪を表明する、あるいは差別を正当化や助長する表現」これがヘイトスピーチ。2013年流行語大賞にノミネートされ、広く認知された比較的最近の言葉。特定の属性に対する差別的な表現や行為は昔からありました。現代社会では、法制度上の差別は過去に比べ大幅に減少。ですが、人々との差別感情が簡単に消滅することはなく、マイノリティ(少数者)への偏見を助長し現状の力関係を強化し差別を固定化する、これこそがヘイトスピーチの怖さなのです。マイノリティの人々の尊厳を傷つけ、社会の分断を深めたその結果、ホロコーストやルワンダの大量虐殺、国内では同和問題、在日コリアン問題、障害者・女性差別問題等など、数えあげればきりがありません。

戦前日本は、国民は言論・思想統制下に置かれ、不安や不満、恐れや閉塞感漂う日々だったのではないのでしょうか…。今の日本は、急激な物価上昇に生活苦、気候変動や外国人増加への社会不安等、希望が見いだせないが故に「日本人ファースト」というフレーズが飛び出したのかも…。この言葉には、**排外主義(外国人や異質な文化を持つ人々に対し非合理的・感情的な恐怖、嫌悪、敵意が生まれ、これを排除・排斥しようとする思想や態度)**を助長し、これが正しいのだと思わせる気配を孕んでいる。第217号(9/19発行)の図書室だよりを発行する際に、ナチス・ドイツについて調べました。なぜユダヤ人に対して残虐なことをドイツ国民が賛同し、容認してしまったのか不可解でした。歴史的な事実は**【ヒトラーが演説で、言葉巧みに偏見と敵意と増悪をかきたて続け、国民を洗脳】**したからです。排外的主義的発言が当然だという空気が確実に蔓延するように世論を誘導していく。案外、戦争って、こんなふうになるのかもしれない……。これって、権力者による**‘高度で巧妙な罠’**だ!!

★ 言論の自由とは ★

民主主義社会の基礎の権利として長い歴史の中で確立され、その歴史は古代ギリシャの民主主義にまで遡る(第218号10/15発行)。古代ギリシャ・アテナイ(BC5~BC4)では、市民(自由な男性市民のみ)が自由な発言、意見を述べる事が許されていた。啓蒙思想が広がった18世紀、ヨーロッパでは「理性と自由」を重視する考えが広まり、言論の自由が多くの社会で必須の権利として認められる歴史的背景の中で発展してきた経緯があります。



今年は戦後80年。日本は、明治維新(1868/9/8)から近代化がスタート。明治維新(明治憲法1889/2/11発布)～終戦(1945/8/15)までの77年間と日本国憲法施行(1947/5/3)～今日までの78年間。終戦日を境に、日本人の価値観が一変。明治憲法と決定的に違う点は、**日本国憲法は【国民が主役】の主権在民・基本的人権保障・国民の3大義務(教育を受ける・勤労・納税)**です。(明治憲法では、【主権は天皇】・人権は法律の範囲内でのみ保障(条件付きの人権保障)・兵役の義務と明記)今年18歳の誕生日を迎え、選挙権を得ました。女性には戦前、選挙権がありませんでした。明治憲法下では、成人した国民全員が政治に参加できない時代でした。選挙権は、明治23年(1890)には制限選挙(満25歳以上男子且つ15円以上納税者)で、大正14年(1925)満25歳以上の男子のみ(男子普通選挙権)となり、昭和20年(1945)にやっと20歳以上の男女平等の普通選挙権(2015/H27より18歳に)が実現したのです。

日本国憲法第21条に「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」と言論・表現の自由も基本的人権であると日本国憲法は謳っています。これは、国が、個人の発言・意見・表現の自由を認める、尊重しますよって意味です。**例え異なる価値観の人であっても、互いを尊重しあい、考え方や意見が違って共存を目指す社会。**言論の自由の権利を行使するには、暗黙の了解として、上記の考え方が表裏一体のもので、切り離すことは出来ないのだといえるのかもしれない。

第220号

図書室だより

2025/12/15 発行

No.2

★情報を読み解く力 & 歴史から学ぶ★

SNS や動画サイトは、今や生活の一部、重要な情報源になっている人も多いのではないのでしょうか。私もその一人です。SNS って、興味のある情報が優先的、いや先回りして表示される仕組みがあり（アルゴリズム＝問題を解決するための手順や方法）、自分にとり心地よい情報ばかりを目にする。すなわち自分の意に沿わない・好まない情報に触れなくなってきています。「世の中の多くの人は自分と同じ考えだ。自分と違う意見を持つ人達は偏っていてオカシイ」。これが毎日シャワーみたいに襲ってくるのって、ちょっと怖い気がしませんか。知らない間にじわじわと、頭の中に極端なバイアス（物事の見方や考え方の偏りや歪み）がかかってしまうのではないかと…。【メディア情報リテラシー、情報を読み取る能力を高めていくことが大事】。でないと、煽情的な誤情報に洗脳されてしまうかもしれません。

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」

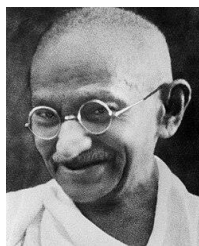


ドイツ敗戦 40 年(1985/5/8)、当時西ドイツ・ワイツゼッカー大統領の演説一節。国民に対して、ナチス・ドイツの過去をありのままに見つめる勇気を持つように求めた歴史上最も優れた演説の一つだと言われています。「過去を変える」「起こらなかったことにする」等と歴史を直視しないことが現在の問題を見えなくするのだと警告しています。過去から目をそらすことなく、歴史から教訓をから学ぶことが重要だとあらためて考えられる言葉です。演説の全文は検索すればすぐに出てきます。

一読する価値あります!!。A4版で約6枚の文章量なので、是非、読んでみてください。

「世界によって自分を変えられないようにするため」

インドのガンジー曰く【あなたがする行動がほとんど無意味であったとしても、それでもあなたはそれをしなくてはならない。それは世界を変えるためではなく、世界によって自分を変えられないようにするために】。嘘は巧妙にやってくる、真実は自分で探し求めなければならない。あふれる情報の中から、私達は真偽を見極める力が今、試されているのかもしれない。



慧眼を磨けば核心へ

私達は日々、多くの溢れかえる情報の渦に囲まれた環境に置かれています。そして、瞬時に、情報の真偽は？本質は何か？を見極める力をつける必要に迫られています。近年インターネットの世界的な普及により、ありとあらゆる情報が洪水のように押し寄せています。さらに AI 技術の目覚ましい進化により、本物か、フェイクかを見極めも困難になってきているように感じています。SNS 等では、ある意図を持ち、扇動し、社会を分断する偽りの情報、悪意のある情報が氾濫していることもあり得るのではないのでしょうか。自分が興味のある情報だけを信じて、それが全て正しいと思ってしまう考えに知らず知らず陥ってしまうのかもしれませんが。自分に都合の良い情報だけを、鵜呑みにし、視野が狭くなっていることに気がつかなくなっている可能性が生まれてしまう、これはネット社会の弊害ともいえる一面ではないのでしょうか。

今の立ち位置が、たまたまマジョリティ(多数者)側で排外主義をよしとしているが、いつ何時、或る日突然、マイノリティ(少数者)側の立場と入れ替わり【自分自身も予期せず異質の者として排除されるかもしれない】という危険性を孕んでいるかもという想像力が欠落しているのではないのでしょうか。

世の中に、絶対に“大丈夫・安全・優位・不変”って事はないと思います。【目標 17：パートナーシップで目標達成をしよう】これは、私達の人格・知性・教養・良心等、**その人自身の人間性が試されている**のではないのでしょうか。

これ、人類に課せられた究極の踏み絵かも

文責:図書部部长 M3-2 N.Y